

届出

[平成20年度設置]

計画の区分：学部の設置

東北工業大学 ライフデザイン学部

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東北工業大学
平成21年5月1日現在

作成担当者

法人本部事務局（企画調査課）

法人本部事務局次長 ヒノ リュウイチ
兼企画調査課長 樋野 隆一

電話番号 022-305-3323

F A X 022-305-3362

e-mail hino1058@tohtech.ac.jp

大学事務局（学務課）

大学事務局次長 サイトウ ケンジ
兼学務課長 斉藤 健二

電話番号 022-305-3161

F A X 022-305-3163

e-mail saito@tohtech.ac.jp

目 次

1. 調査対象大学等の概要等	P 1
2. 授業科目の概要	P 6
3. 施設・設備の整備状況, 経費	P 1 6
4. 既設大学等の状況	P 1 7
5. 教員組織の状況	P 1 8
6. その他全般的事項	P 3 4
(添付資料) FD委員会規定	P 3 8
(別紙報告書) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見	P 3 9

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東北工業大学

(2) 大学名

東北工業大学

(3) 大学の位置

〒982-8588
宮城県仙台市太白区ニツ沢6
(宮城県仙台市太白区八木山香澄町35番1号)

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長			
学長	(イワサキ シュンイチ) 岩崎 俊一 (平成元年4月)	(サワタ ヤスジ) 沢田 康次 (平成20年4月)	任期満了に伴い変更 平成20年4月1日 (21)
学部長			
学科長等			

- (注) 1. 『(3) 大学の位置』は、届出学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
2. 『(4) 管理運営組織』の「変更状況」欄は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」欄に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成21年度に報告する内容 → (21)

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 2 様式は, 平成19年度開設の場合(平成22年度までの4年間)ですが, 開設年度に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)
 3 定員を変更した場合は, 備考欄に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) -① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン 学科 学士(デザイン)	年 4	人 80	年次 人 0	人 320	
安全安心生活デザイン 学科 学士(ライフデザイン)	4	80	0	320	

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

クリエイティブデザイン学科

対象年度 区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	(-)人 80	(-)人 80	(-)人	(-)人	1.16 倍	
志願者数	(-)人 212	(-)人 175	(-)人	(-)人		
受験者数	(-)人 207	(-)人 172	(-)人	(-)人		
合格者数	(-)人 123	(-)人 118	(-)人	(-)人		
B 入学者数	(-)人 97	(-)人 89	(-)人	(-)人		
入学定員超過率 B/A	(-)人 1.21	(-)人 1.11	(-)人	(-)人		

安全安心生活デザイン学科

対象年度 区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	(-)人 80	(-)人 80	(-)人	(-)人	0.87 倍	
志願者数	(-)人 93	(-)人 145	(-)人	(-)人		
受験者数	(-)人 92	(-)人 145	(-)人	(-)人		
合格者数	(-)人 90	(-)人 118	(-)人	(-)人		
B 入学者数	(-)人 63	(-)人 78	(-)人	(-)人		
入学定員超過率 B/A	(-)人 0.78	(-)人 0.97	(-)人	(-)人		

いる場合には, (())書きとするなどし, その旨を備考欄に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。

- 2 「平均入学定員超過率」欄には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

クリエイティブデザイン学科

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備 考
1年次	[-] 98	[-] 89	[]	[]	平成20年度に転学部学生1名含む(21)
2年次	[]	[-] 98	[]	[]	
3年次	[]	[]	[]	[]	
4年次	[]	[]	[]	[]	
計	[-] 98	[-] 187	[]	[]	

安全安心生活デザイン学科

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備 考
1年次	[-] 63	[-] 79	[]	[]	平成21年度1年次及び、2年次に転学部学生それぞれ1名含む(21)
2年次	[]	[-] 62	[]	[]	
3年次	[]	[]	[]	[]	
4年次	[]	[]	[]	[]	
計	[-] 63	[-] 141	[]	[]	

(注) 1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況
クリエイティブデザイン学科

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度	計 [0] 0	(累積)計 [0] 97	[0 %] 0 %
	うち平成20年度入学者 0 人	うち平成20年度 97 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 [0] 0	(累積)計 [0] 186	[0 %] 0 %
	うち平成20年度入学者 0 人	うち平成20年度 97 人	
	うち平成21年度入学者 0 人	うち平成21年度 89 人	
	(主な退学理由)		
平成22年度	計 []	(累積)計 []	[%] %
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 []	(累積)計 []	[%] %
	うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
(主な退学理由)			

(注)1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数の割合」欄は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な退学理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

- ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
- ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

安全安心生活デザイン学科

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度	計 [0] 0	(累積)計 [0] 63	[0] % 0 %
	うち平成20年度入学者 0 人	うち平成20年度 63 人	
	(主な退学理由)		
平成21年度	計 [0] 2	(累積)計 [0] 141	[0] % 1.4 %
	うち平成20年度入学者 2 人	うち平成20年度 63 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 78 人	
	(主な退学理由)		
	・学力不足 1名、就学意欲の低下 1名		
平成22年度	計 []	(累積)計 []	[] % %
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	うち平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	(主な退学理由)		
平成23年度	計 []	(累積)計 []	[] % %
	うち平成20年度入学者 人	平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 人	平成21年度 人	
	うち平成22年度入学者 人	平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	平成23年度 人	
(主な退学理由)			

(注)1 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。

2 「入学者数に対する退学者数の割合」欄は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

3 「主な退学理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	地域社会論	1前		2								
	暮らしと経済学	1前		2								
	メンタルヘルスとケア	1後		2								
	社会心理学	2前		2								
	市民と法	2前		2								
	日本近代史	2後		2								
	日本の政治と国際社会	2後		2								
	現代の倫理	3前		2								
	現代の哲学	3後		2								
	文化人類学	3後		2								
	情報リテラシー	1前	2									
	コンピュータ基礎	1後	2			1						
	数学的思考法	1前		2								
	生活とサイエンス	1前		2								
	生活とテクノロジー	1前		2								
	命と生物学	2前		2								
	地球環境とエコロジー	2後		2								
	ばらつきと規則	2後		2								
	現代科学総論 A	3前		2								教職課程申請の際に工業の包括的科目としての開講を求められ追加で開講する(21)
	日本語表現 A	1前	2									
日本語表現 B	1後	2										
英語 1 A	1前	2										
英語 1 B	1後	2										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	英語 2 A	2前	2								
	英語 2 B	2後	2								
	英会話 A	3前		1							
	英会話 B	3後		1							
	資格英語 A	3前		1							
	資格英語 B	3後		1							
	フランス語 A	1前		2							
	フランス語 B	1後		2							
	ドイツ語 A	1前		2							
	ドイツ語 B	1後		2							
	韓国語 A	1前		2							
	韓国語 B	1後		2							
	中国語 A	1前		2							
	中国語 B	1後		2							
	プレゼンテーション	2後		2							
	ビジネスマナー	3前		2							
	スポーツ実技 1	1前		1							
	スポーツ・身体科学	1後		1							
	スポーツ実技 2	2前		1							
	健康論	2後		2							
特別課外活動 1	1前～4後		2								
特別課外活動 2	1前～4後		2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	デザインセミナーⅠ	1前	1			6	1	3			
	造形基礎論	1前	2			1					
	造形演習Ⅰ	1前	3			1				1	
	モデリング演習	1前	3								
	プロダクトデザイン論Ⅰ	1後	2			2		1			
	エクスペリエンスデザイン論	1後	2			1	1	1			
	ビジュアルデザイン論	1後	2					1			
	デザインセミナーⅡ	1後	1			6	1	3			
	デッサン演習	1後	3								
	造形演習Ⅱ	1後	3			1				1	
	デザイン基礎演習	1後	4			2		3		1	
	デザインセミナーⅢ	2前	1			6	1	3			
	デザイン実習Ⅰ	2前	4			6	1	3		1	
	デザイン実習Ⅱ	2後	4			6	1	3		1	
	CAD演習	2後	3			1	1				
	デザイン実習Ⅲ	3前	8			6	1	3		1	
	キャリアデザイン	3後	1								
	デザイン実習Ⅳ	3後	8			6	1	3		1	
	クリエイティブデザイン研修Ⅰ	4前	3			6	1	3			
	クリエイティブデザイン研修Ⅱ	4後	3			6	1	3			
	生産技術	2前		2		1		1			
	エルゴノミクス	2前		2		1					
	材料学	2前		2		1		1			
	色彩論	2前		2							
	映像・メディア論	2前		2							
	広告論	2前		2							
エディトリアルデザイン	2後		2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	プロダクトデザイン論Ⅱ	2後		2					1			
	道具と空間	2後		2		1						
	情報デザイン論Ⅰ	2後		2		1		1				
	デザインプログラミング	3前		2			1					
	インタラクティブデザイン論	3前		2		1						
	情報デザイン論Ⅱ	3前		2								
	ユーザリサーチ論	3前		2								
	工芸学	3前		2		1						
	デザイン史	3後		2		1						
	データ分析	3後		2		2	1					
	デザインマーケティング論	3後		2								
	知的財産権	4前		2								
	クリエイティブデザイン特別講義	4前		2								
	デザイン起業論	4前		2								
クリエイティブデザイン特別課外活動	1前～4後		4									

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
28	58	0	86	28	59	0	87	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

<ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 教育 科目	地域社会論	1前		2								
	暮らしと経済学	1前		2								
	メンタルヘルスとケア	1後		2		1						
	社会心理学	2前		2		1						
	市民と法	2前		2								
	日本近代史	2後		2								
	日本の政治と国際社会	2後		2								
	現代の倫理	3前		2								
	現代の哲学	3後		2								
	文化人類学	3後		2								
	情報リテラシー	1前	2									
	コンピュータ基礎	1後	2									
	数学的思考法	1前		2								
	生活とサイエンス	1前		2								
	生活とテクノロジー	1前		2								
	命と生物学	2前		2								
	地球環境とエコロジー	2後		2								
	ばらつきと規則	2後		2								
	現代科学総論 A	3前		2								教職課程申請の際に工業の包括的科目としての開講を求められ追加で開講する(21)
	日本語表現 A	1前	2									
	日本語表現 B	1後	2									
	英語 1 A	1前	2									
	英語 1 B	1後	2									
英語 2 A	2前	2										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	英語 2 B	2後	2								
	英会話 A	3前		1							
	英会話 B	3後		1							
	資格英語 A	3前		1							
	資格英語 B	3後		1							
	フランス語 A	1前		2							
	フランス語 B	1後		2							
	ドイツ語 A	1前		2							
	ドイツ語 B	1後		2							
	韓国語 A	1前		2							
	韓国語 B	1後		2							
	中国語 A	1前		2							
	中国語 B	1後		2							
	プレゼンテーション	2後		2							
	ビジネスマナー	3前		2							
	スポーツ実技 1	1前		1							
	スポーツ・身体科学	1後		1							
	スポーツ実技 2	2前		1							
	健康論	2後		2							
	特別課外活動 1	1前～4後		2							
特別課外活動 2	1前～4後		2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	安全安心生活デザイン概論	1前	2			6	3	2			
	生活デザインセミナーⅠ	1前	1			6	3	2			
	都市防災論	1後	2			1					
	住まいの計画	1前	2			1					
	自己理解とメンタルヘルス	1前	2			1					
	表現技法演習	1前	2			1	1				
	生活デザインセミナーⅡ	1後	1			6	3	2			
	地域の産業デザイン論Ⅰ	1後	2			1					
	住まいの文化史	1後	2				1				
	インテリアデザイン論Ⅰ	1後	2				1				
	ライフサイクルと健康	1後	2				1				
	生活デザインCADⅠ	1後	2				1				
	生活デザインセミナーⅢ	2前	1			6	3	2			
	住まいの環境工学Ⅰ	2前	2			1					
	健康生理学概論	2前	2					1			
	生活デザイン演習Ⅰ	2前	4			6	3	2			
	生活デザインセミナーⅣ	2後	1					1			
	看護学入門	2後	2					1			
	生活デザイン演習Ⅱ	2後	4			6	3	2			
	地域のデザイン実習Ⅰ	3前	4			2	1				
	住まいのデザイン実習Ⅰ	3前	4			3	1				
	心身のデザイン実習Ⅰ	3前	4			1	1				
	地域のデザイン実習Ⅱ	3後	4			2	1				
	住まいのデザイン実習Ⅱ	3後	4			3	1	1			
	心身のデザイン実習Ⅱ	3後	4			1	1	1			
	生活デザイン研修Ⅰ	4前	3			6	3	2			
	生活デザイン研修Ⅱ	4後	3			6	3	2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	防災コミュニケーション	2前		2		1						
	地域の産業デザイン論Ⅱ	2前		2		1						
	インテリアデザイン論Ⅱ	2前		2			1					
	生活デザインCADⅡ	2前		2			1					
	地域のくらしと生産	2後		2								
	高齢者の生活と住まい	2後		2		1						
	住まいの環境工学Ⅱ	2後		2		1						
	健康体医学論	2後		2				1				
	住まいの構造と材料	2後		2		1						
	地域環境の保全とエネルギー	3前		2								
	都市と地域の計画	3後		2								
	在宅看護論	3前		2				1				
	住まいのための力学	3前		2		1						
	環境心理学	3前		2								
	障害者生活論	3前		2			1					
	現代スポーツ文化論	3前		2			1					
	バリアフリーとユニバーサルデザイン	3後		2								
	住環境の制御と設備	3後		2								
	心の発達	3後		2			1					
	生活習慣病と健康支援	3後		2								
	住まいの材料実験	3後		2								
	生活デザイン総合科目Ⅰ	4前		2								
	生活デザイン総合科目Ⅱ	4前		2								
	住まいのための法規	4前		2								
	住まいの施行と積算	4前		2		1						
	生活デザイン特別講義	4後		2								
	生活デザイン特別課外活動	1前～4後		4								

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 35	科目 63	科目 0	科目 98	科目 35 [0]	科目 64 [0]	科目 0 [0]	科目 99 [0]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2	特記事項なし					
3						

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2	特記事項なし					
3						

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

特記事項なし

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

クリエイティブデザイン学科

未開講科目と廃止科目の計	0		=	0.00
届出時の計画の授業科目数の計	86			

安全安心生活デザイン学科

未開講科目と廃止科目の計	0		=	0.00
届出時の計画の授業科目数の計	97			

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置届出書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
- 2 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)
- 3 「(3) 未開講科目」は、届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 4 「(4) 廃止科目」は、届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- 5 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- 6 「(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	210,782 m ²	0 m ²	0 m ²	210,782 m ²				
	運動場用地	59,037 m ²	0 m ²	0 m ²	59,037 m ²				
	小 計	269,819 m ²	0 m ²	0 m ²	269,819 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	269,819 m ²	0 m ²	0 m ²	269,819 m ²				
(2) 校 舎	専 用	61,705.61 m ² (61,705.61 m ²)	共 用 (0 m ²)	共用する他の学校等の専用 (0 m ²)	計 (61,705.61 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	48 室 49 室	演 習 室 26室	実験実習室 144室	情報処理学習施設 12室 11室 (補助職員 2人)	語学学習施設 1室 (補助職員 0人)	大学全体 講義室を情報処理学習室に変更したため(21)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科			10 室					
	ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	届出学部全体	
	ライフデザイン学部	1,870 [300] (900 [100])	16 [6] (16 [6])	1 [1] (1 [1])	19 (13)	6 (3)	0 (0)		
	計	1,870 [300] (900 [100])	16 [6] (16 [6])	1 [1] (1 [1])	19 (13)	6 (3)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 配架場所の整理見直当に伴う、収容スペースの増加のため(21)		
	2,980.85 m ²		410 席		230,000冊 202,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	3,576.71 m ²		野球場 2 面		サッカー場 1 面				
			テニスコート 5 面		バレーコート 4 面				
			アーチェリー場		400mトラック 1 面				
			武道場、剣道場		弓道場				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学部全体 (納付金は、学科ごと異なるため各々に記載。)
		教員 1 人当り研究費等	547 千円	547 千円	図書購入費	6,000 千円	3,230 千円	2,820 千円	
	共 同 研 究 費 等	7,400 千円	7,400 千円	設備購入費	82,670 千円	10,000 千円	10,000 千円		
	学生 1 人当り納付金	学 科 名	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		クリエイティブデザイン学科	1,530 千円	1,290 千円	1,300 千円	1,310 千円	千円	千円	
		安全安心生活デザイン学科	1,260 千円	1,020 千円	1,030 千円	1,040 千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金収入、資産運用収入、手数料収入 等						

- (注) 1 届出時の計画を設置届出書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
 2 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	東北工業大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部 知能エレクトロニクス学科	4	120	0	550	学士 (工学)	0.94	昭和39年	宮城県仙台市 太白区八木山 香澄町35-1	平成20年度から 学生募集停止
情報通信工学科	4	120	0	550	学士 (工学)	1.11	昭和39年		
建築学科	4	120	0	550	学士 (工学)	1.11	昭和41年		
建設システム工学科	4	80	0	360	学士 (工学)	0.76	昭和42年		
デザイン工学科	—	—	—	—	—	—	—		
環境情報工学科	4	100	0	400	学士 (工学)	0.84	平成13年		
ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科	4	60	0	240	学士 (経営コミュニケーション)	1.33	平成20年		

(注) 1 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。

(大学院及び短期大学の専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- 2 設置届出書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
- 3 「定員超過率」欄には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- 4 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、備考欄に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

6 その他全般的事項

<ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科及び安全安心生活デザイン学科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特記事項なし	特記事項なし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>平成18年4月1日より学内においてFD委員会を設置した。</p> <p>また、FD委員会の中に幹事委員3名と委員長からなるFD委員会幹事会を編成し、全学的なFDをリードしている。</p> <p>FD委員会規定を別に添付する。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成18年度は5回開催。委員12名ほぼ全員が参加している。</p> <p>平成19年度は3回開催。委員12名ほぼ全員が参加している。</p> <p>平成20年度は3回開催。委員13名ほぼ全員が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none">・各種アンケートの実施及び公表について・次年度新規採用教員への研修について・公開授業について・そのたFDのための諸施策について・各施策の実施時期及び検討予定について

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・新任教員説明会の実施
- ・教育改善シンポジウムの実施
- ・公開授業の実施
- ・大学評価アンケートの実施
- ・授業評価アンケートの実施

b 実施方法

- ・新任教員説明会については4月初旬に（今年度は4月3日）に実施した。教務関係、学生関係、就職関係、事務関係等について、それぞれ代表者がガイダンスを行う。
- ・教育改善シンポジウムについては、授業方法改善に積極的に取り組んでいる本学の教員から3名を選び講師として、「少子化時代の大学教育－多様な学生への対応」をテーマに発表を行い、発表終了後質疑応答を行う。シンポジウム終了後実施記録報告書を作成し、全教員に配布する。
- ・公開授業については、平成20年12月1日（月）～12月5日（金）の期間に、工学部2年次、ライフデザイン学部1年次の授業を対象に実施。対象授業の各教室への出入りを自由に認め、聴講した授業の担当教員にeメールにて直接コメントを送信してもらった。なお、同時にCCにて、学務課宛にも送信してもらい、本学のFD活動に役立てることとした。
- ・大学評価アンケートの実施については、全学生に対し行い。授業や学生生活や施設などに対して感じている生の声を集め、先生方への今後の指導・改善等に取り組むこととしている。
- ・授業評価アンケートについては、各教員が担当授業の際に実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・新任教員説明会は、毎年度4月初旬（今年度は4月3日）に実施する。新任教員の全員が参加している。
- ・教育改善シンポジウムについては、今年度9月3日（水）に実施した。参加者は70名から80名程度であった。
- ・公開授業は、今年度初めて実施した。12月1日（月）～12月5日（金）の期間に工学部2年次、ライフデザイン学部1年次の授業を対象に実施。対象科目は228科目で、聴講した先生方の人数はのべで213名であった。
- ・大学評価アンケートについては、2月13日（金）の成績発表時に、全学生に対しマークカードを配布し、その場で記入させて回収する方式を実施。ほぼ全学生が提出している。
- ・授業方法評価アンケートについては、前期・後期の授業終了までに各教員が実施。専任・兼任含めほぼ全員の教員が実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- 各教員が自ら実施した授業アンケートやシンポジウムを参考に、授業方法をよりわかりやすくするために改善し、学生へフィードバックしている。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別紙のとおり)
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表(予定)時期
 - ・平成24年に自己点検を実施し、10月に公表予定。
 - b 公表方法
 - ・自己点検・評価報告書を冊子・CDにて刊行し、大学等(100先)に配布します。
 - ・大学ホームページ上に公開しています。
- ③ 認証評価を受ける計画
 - ・平成18年度に評価機関(大学基準協会)にて相互評価ならびに認証評価を受け、平成19年3月に同協会より大学基準に適合していると認定されました。認定期間は平成26年3月までですので、平成25年度に再度評価を受けるべく、学内にて検討中。
 - ・平成20年6月18日に外部評価委員会を開催し、外部の評価委員7名から評価をいただき、指摘事項に対して本学の対応についてを報告した。本年度も6月中旬に外部評価委員会を開催予定である。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置届出書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成 21 年 10 月 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置届出書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.tohtech.ac.jp>)

② 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表予定時期 (平成 21 年 10 月 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.tohtech.ac.jp>)

- (注) 1 項目は、1～5の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 「(1) 設置計画変更事項等」の記入事項は、原則として、設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(3) 自己点検・評価等に関する事項」については、届出時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(4) 情報提供に関する事項」の「①」について、現在は未公表であり、今後公表を予定している場合、公表後の取扱いについて記入してください。
また、「①」又は「②」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。
なお、「②」について、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secci@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。

東北工業大学 FD 委員会規定

(趣旨)

第1条 この規定は、東北工業大学 FD 委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等について定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、東北工業大学（以下「本学」という。）における FD 活動を組織的に行い、もって本学の諸活動を向上させることを目的とする。

(定義)

第3条 この規定における「FD」とは、本学に所属する個々の教員が本学における種々の義務（教育・研究・管理・社会奉仕等）を達成させるために必要な専門的能力を維持し、改善するためのあらゆる方策や活動をいう。

(任務)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とする。

- (1) FD の企画、立案に関する事
- (2) FD に関し、提言及び指導・助言を行う事
- (3) FD に関する調査、資料収集及び指導・助言を行う事
- (4) FD に関する講演会、研修会等を企画し、実施する事
- (5) その他 FD に関する事

(組織)

第5条 委員会は、学長が指名する次に掲げる委員を持って構成する。

- (1) 副学長
- (2) 教務部長
- (3) 各学科長
- (4) 人間科学センター長
- (5) 大学事務局長
- (6) その他必要と認められる者 若干名

2 委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる

3 委員会は、FD に関する専門的事項を調査・検討するため、専門委員会を置くことができる。専門委員会に関する事項は、別に定める。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、2年とし、重任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第7条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は教育研究担当の副学長を、副委員長は、将来構想・広報担当の副学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。委員長に事故あるときは、副委員長がこれに当たる。

(会議)

第8条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことはできない

附 則

1 この規定は、平成18年4月1日から施行する

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

クリエイティブデザイン学科

1. 申請書に記した本学科の設置の趣旨・目的

豊かな人間生活を指向し，社会との真の融合を目指すことにより，地域の文化と産業の発達に寄与するというライフデザイン学部の目的を受け，クリエイティブデザイン学科では，人々の生活を美しく便利にする製品や情報システムを創造的に作り上げることで地域の文化と産業の発達に寄与ができる人材を育成することを目的としている。

2. 趣旨・目的の達成状況

1) 入学者状況

①入学志願者数

本学科の入学定員 80 名に対して，平成 20 年度の志願者は 212 名（倍率 2.7 倍），平成 21 年度は 175 名（倍率 2.2 倍）であった。志願者の多くが宮城を中心とした東北 6 県の高校からの志願者であり，設置の目的である地域の必要性に合致していると考えられる。

②入学者の分布

平成 20 年度の入学者は 97 名，平成 21 年度は 89 名であった。これは，定員のそれぞれ 1.21 倍と 1.11 倍である。平成 21 年度を出身県別で見ると青森県 5 名，秋田県 2 名，岩手県 5 名，福島県 2 名，茨城県 1 名で残りは 74 名（83.1%）が宮城県である。

女子学生の比率は，平成 20 年度 42 名（43.3%）平成 21 年度 37 名（41.6%）と共に 4 割を超えており，工業大学の中では最も多くの女子学生が入学しており，バランスの良い構成になっている。

③入学学生の性向

平成 20 年度，平成 21 年度の入学生とも非常に意欲的である。特に平成 20 年度の学生は，自分たちが 1 期生であることに誇りを持っており，勉学にも課外活動にも積極的に参加している学生が多い。

2) 退学者，在学生の状況

①退学者

現在のところ平成 20 年度入学者も平成 21 年度入学者も退学者はいない。学科の内容を理解して入学してきている学生が多いためと考えられる。

②在学生の状況

平成 21 年 5 月 1 日現在の在学生は，2 年次 97 名（内 1 名が経済的理由から休学中），1 年次 89 名の計 186 名である。

3) 教育及び学習環境

①計画の堅実な実施

平成20年度入学生に対しては、「学科設置届出書」に記載の1年次配当科目が堅実に実施できた。1年次にも教養科目のほか専門科目をいわゆる“くさび形”になるように構成して、低学年より専門科目を課すことで、学習に対する意欲を高めることにつながっている。また、1年次から2年次にかけて個々の学生の興味の把握と生活および進路の指導を行なうために、少人数教育科目(8~9名)のデザインセミナーⅠ~Ⅲを設けているが、きめ細やかな指導につながっている。

②学生同士が刺激し合う教育環境

クリエイティブデザイン学科としてはまだ2年次までしか在籍していないが、本学科の母体となったデザイン工学科の学生が同じ場所で学んでいる。学科の建物内にすぐれた作品を展示するスペースを設けており、また高学年の制作を見たりすることにより、常に刺激されることになり、クリエイティブな教育環境となっている。

学年を超えた大学祭のイベント等もあり、クリエイティブデザイン学科の学生の活動が、逆に高学年のデザイン工学科の学生に刺激を与えている面すらあり、創造的な学習をする環境として適切な場になりつつあると言える。

③制作空間の確保の難しさ

授業時間における制作空間は確保されている。一方、授業時間以外でも常に制作を続けることにより、スキルアップにつながるが、その制作空間を確保することが難しい状態である。譲り合いながら工房や一般教室等を使用しているが、授業優先となるため、一時退出や制作物の一時撤去が頻繁に起こる。今後の改善の余地があると言える。

④地域との連携

市街中心部にあるエクステンションスクール「一番町ロビー」での作品展示、七夕飾りを制作して一番町ロビー近くの商店街に飾るなど、地域と連携した活動も行われている。また、地元の企業訪問を実施し、学生の将来の進路検討やインターンシップ参加、および学生の自主的な連携の支援につながることを期待している。

4) 教員の資質向上の方策

①学科の専門科目の授業評価の実施とフィードバックを行い、問題点の把握と対処を行っている。また、全学的なFD活動の、「教育シンポジウム」、新任教員対象の「本学の教育と大学運営等へのガイダンス」や「授業公開」へ積極的に参加している。

②デザイン実習では第一線で活躍する非常勤講師を積極的に招いて、専任教員とのコラボレーションを行うことで、学生へのきめ細かい対応をしつつ先端の技術の習得を学生のみならず教員も行っている。また、専任講師だけではなく非常勤講師も含めて学生の教育目標を共有できるよう、専任講師と非常勤講師の参加による「講師会」という交流の場を設けている。

③デザイン実習の多くは複数の教員で担当し、複数の視点による学生指導と共に教員間での教育方法の共有を行っている。

5) 総括評価・所見

以上のように、本学科の設置の趣旨・目的は確実に達成されつつあると考えている。しかしながら、学生がより活発に制作・活動できるようにするためには、さらに環境を整えていく必要があると考える。また、実習等に多くの教員が長時間にかかわることで教育の質を高めているが、近年大学運営のための会議や作業時間も多く必要になっており、教員自身のクリエイティブな活動を行う時間の確保が難しくなっている。

設置目的でもある地域連携をさらに進めていく上からも、解決策を考えていなければならないと考える。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

安全安心生活デザイン学科

1. 申請書に記した本学科の設置の趣旨・目的

東北工業大学ライフデザイン学部設置届出書（平成 19 年 4 月）に記した本学科の教育研究目標は、以下の通りである。

「健康で文化的な生活を守り、住まいや地域社会などの基本的な生活手段を守りながら、安全で安心な暮らしと豊かな生活環境を創造することのできる人材を育成する。そのため、工学をベースとし、家政学や保健衛生学などを取り入れた文理融合型の教育を行う。」

2. 趣旨・目的の達成状況

1) 入学者の確保の状況

①入学志願者数と入学者数

募集人員 80 名に対して、開設初年度（平成 20 年度）は、志願者数の総数（延べ人数）86 名、入学者数 63 名と、17 名の定員割れを起こしてしまった。しかし、2 年目の平成 21 年度は、志願者数の総数 145 名（初年度比 68%増）、入学者数 78 名（初年度比 24%増）と、とくに志願者数を大幅に改善することができた。この原因としては、入試部をはじめとする大学あげての広報のてこ入れや、本学科教職員の危機感溢れる精力的な高校訪問実施などにより本学科の存在とその教育内容が少しずつ高校側に知られるようになったためと思われるが、初年度の試験状況の反動という見方もあるため、次年度入試においては逆の反動（揺り戻し）に注意する必要がある。いずれにしても、ごく少数とはいえ未だ定員を満たしていない状況なので、気を緩めることなく、本学科の魅力を伝える適切な広報活動に一層力を注いでいきたいと思っているところである。

②入学者の分布

平成 21 年度の入学者の出身高校別割合は、普通高校 72%、工業高校 23%、商業・農業高校 4%と、普通高校以外が 1/4 以上を占めた。初年度に比べて普通高校が減り工業高校が 6 ポイント増えた状況にあるが、文理融合型の教育を目指している本学科としては望ましい方向にあると言える。また、出身地別にみると、仙台市内が 43%と初年度より 6 ポイント減った分、県内（仙台市以外）および県外（東北 6 県+茨城）に満遍なく分布する結果となった。女子の比率は 33%で、これも、初年度比 8 ポイント増加している。

③入学者の性向

開学して 2 年目だが、全般に、1 年生、2 年生とも勉学に対する姿勢は良好のようで、工学部から移籍したある教員によれば、「工学部の学生より学習に対する熱意を感じる。」そうである。ただし、時として理数系の話題や手を動かす作業などに対する反応において、

工科系、デザイン系の学生に比べてネガティブな雰囲気は垣間見られる、との声もある。工学をベースとした文理融合型の教育を目指す立場からは、学習の動機付けなど、授業に一層の工夫が必要と思われる。

2) 在学者の状況、退学者

平成 21 年 6 月 1 日現在の在学者は、2 年次 61 名、1 年次 78 名である。2 年次の学生は、63 名の入学者の中からこれまでに 2 名の退学者があった。退学の理由は、いずれも、親のすすめや友人達の進学状況に流されてなんとなく入学し、1, 2 ヶ月ほど登校したものの大学になじめず不登校となったもので、休学を経て進路再考慮に至っている。1 年次の学生は、デザイン工学科からの転学科の学生 1 名が加わり、計 79 名でスタートしたのだが、この転学科の学生が入学後まもなくほとんど大学に来ないまま退学してしまう状況が生じた。理由は、やはり、目的のはっきりしないまま入学して休学や転学科をしてしまったことにあるようだ。

本学科としては、導入教育の一層の充実を図るとともに、出席状況の把握など、個々の学生の情報を全教員が共有する態勢を取り、学生の目線に立った、早い時期のきめ細かな対応に努めていきたいと思っている。

3) 教育および学習環境

①教育の状況

設置届出書に記載の 1 年次配当科目は堅実に実施できたと思われる。この中の「生活デザインセミナー」は、6~8 人の新生と担当教員が週一回顔を合わせる少人数ゼミ形式の授業である。学生と教員の良好なコミュニケーションのためと、各教員の専門に応じた入門的課題により、安全で安心な生活に対するデザインマインドを醸成させることが目的であるが、教員によってばらつきが懸念されるため、今後の推移を注意深く見守りながら、入門的セミナーの共通項を明らかにして、本学科独自の動機付け教育プログラムの確立を目指していきたいと考えている。

2 年次からは、本学科の教育プログラムの目玉となる演習科目が新たに始まっている。前期は、心身のコース、住まいのコース、地域のコースの 3 つのコースの基礎的課題をすべて履修させ、後期からのコース選択に生かすようにする予定である。

②学習環境

キャンパス全体としては、緑が多く、何より静かであり、教育研究を行う場として良い立地条件にある、との印象が多くの学生、教職員双方から持たれている。ただし、演習室、実習室に関しては、2 年次の演習室が 3 年次の実習室を兼ねることになるので、狭隘になることは避けられない。来年以降は、学生の居場所確保の観点からも空間の利用と管理に一層の工夫が必要となろう。

4) 教員の資質の維持向上の方策

昨年度は、1年次の専門科目（必修科目）と教養科目のいくつかについて学生の授業アンケートを実施した。専門科目は概ね学生から高い評価を得たものが多かったが、ライフデザイン学部としての新しい教養科目については、「文系出身者には難しすぎる」、「取り扱う範囲が広すぎて要点が判りにくい」など、厳しい指摘のあるものもあった。これらのアンケート結果は個々の教員に通知され、次年度の授業改善に生かされることになっている。そのほか、新任教員は「大学の教育と運営等へのガイダンス」に参加して初任者研修を行った。さらに、個々の教員は、FD委員会が毎年開催している「教育シンポジウム」にも積極的に参加し、教育改善に対する意識向上を図っている。

5) 総括評価・所見

2年目を迎えたばかりでまだまだ未知の部分が多いが、本学科は、以上述べてきたように、その教育目標に向かって確実に進捗していると言えよう。しかし、志願者および入学者の確保の問題、および、在学者に対する適切な動機付け教育プログラムの開発等に関しては、今後とも、より一層力を注がなければならないと考えている。さらに、2年後の卒業生に対する就職支援も大きな課題である。デザイン工学科や建築学科の実績を十分生かすとともに、新しい就職先の開拓にも今のうちから取り組む必要がある。

また、本学科は、地域と住まいと心身の安全安心を標榜する学科である。当然、その教育研究の成果が地域の暮らしの安全安心に還元されなければならないし、地域もそれを望んでいるものと思われる。これについては、昨年、学科内に「地域安全安心センター」を設置し、市民を対象とした防災セミナーや地域の高齢者を対象とした健康増進教室の開催など活発な活動を行い、地域住民から好評を得た。今後は、この活動を、学生を巻き込んだ教育研究プログラムの開発につなげていくことが重要であり、そうすることで、一部ではあるが、本学科の教育目標の達成に一步近づくことができるのではないかと考えている。